

自主映画情報!

祝 10周年・50号記念大特集!

責任編集/きしなみよみ

○「インディーズムービー」のこれまでを、ちょっとまとめてみました。さすがに10年もやっていると、紙面にも色々と、移り変わりがあるようです。もしよろしければ、ご覧ください。

自主映画の情報誌 インディーズムービー 89~2000メモ

- 1989
 - ・市内の有志三人がシネマ結成。「映画制作」をメインとした活動を開始。上映会・新聞発行等の企画を話し合い始める。
 - 1990~93 (第1期)
 - ・自主映画の情報誌として「インディーズムービー」2月に創刊。市内・全国を問う自主映画の上映活動や映画制作を行っており、93年8月より不定期に10号(+号外数号)を発行する。(コエ印刷)
 - ・廃刊号の5「シネマニュース」12月号発行後、95年「シネマ」は発展解散。スタッフ各自の活動を始める。
 - 1995~97 (第2期)
 - ・6「シネマ」メンバーの斎藤拓生と岸浪清史が「仙台シネマスト」を結成。「シネマスト」は仏語で映画製作者の「ミ・ドゥ」(ミ・ドゥ)上映会等の活動を開始すると共に、「インディーズムービー」を復刊・配布を始める。
 - ・毎月1回の上映会(仙台自主映画館)を開始、その宣伝も兼ねて、「インディーズムービー」毎月1回の発行となる。
 - ・96年には仙台市の後援により「仙台ビジュアルフェスタ」の一環として、青年文化センターで毎月1回の上映会を行うようになる。(リゾグラフ印刷)
 - 97年5月~98年5月
 - ・代表2名が映画制作のため、上映会を1年間休止。その間にも新聞は、自主映画関係の情報誌として、形を変えて月1回発行される。
 - ~2000年2月
 - ・98年春より上映会が隔月で復活。新聞も上映会と映画制作を中心とした紙面作りに戻り、現在いる.....0で休。2。
- (※第1期に発行された新聞は、全50号中14号がカットされています。)

いつも読んでくださってありがとうございます。

←なんだか、「自主映画情報」と書くにはちょっともういわけないんですが、この「インディーズムービー」という新聞が発刊されてからなんと10年(!!)たっているという事に最近気づきました。
・今回、ちょっとまとめて振り返ってみようという企画です。これまで、なるべく編集者の「意見」や「評論」を入れないであくまで「情報誌」として作っていかうという方針だったので自分たちの事を、こういった形で紙面にするのは反則みたいで心苦しいのですが、とりあえずよろしくおねがいいたします。

第1期 1989~93



創刊号から4号までは、B4二つ折りで、5号からは、A3の四つ折りに(形式的には現在と同じタイプ)になりました。お馴染みのタイトルロゴは、2号から登場ですがその頃は、白地に黒のものでした。

○映画を作っている人達(自分たちも含めて)の情報誌を作ろうと思い、始まったこの新聞。第1号は、大学の映画の合同上映会「フィルムフェスティバル」と、アニメーション系の自主映画上映会「星屋フィルム」の特集でした。この号には、映画監督の大林宣彦氏のコメントも掲載され、充実したものになりました。
2号以降は、海外の団体の紹介や、当時この新聞を発行していた団体(シネサラダ)で制作した映画の記事など、内容も徐々に充実していきました。(創刊号~5号までの編集長は、岸浪清史、6号~廃刊号までは、熊谷純子が担当しました。)



↑上の「廃刊号」で(廃刊したのか?)一旦は幕を閉じたはずのこの新聞ですが、何故か2年後に復活。この号は、これまでのまとめや、全国の自主映画関係者にコメントをもらったりと、なかなかの充実ぶりでした。手書きを多用した、あたたかい紙面作りには、ファンも多く、連載4コマ漫画(ネコマング/金田幸子)があったりと、今よりもアットホームな感じの紙面でした。



第2期 1995~現在~?



○シネマスト結成→「おすすめ」の開始に従って、情報誌の「インディーズムービー」も、上映会の宣伝も兼ねて、復活する事になりました。(ここで、ロゴが白黒反転して見やすくなりました。) 始めのころは、毎月会場が変わったり、月に2回上映会を行うなど、かなり無謀な事をしていました。

○復活第1号の上映会作品は、以前からお世話になっていた、プロの映画監督である常本監督のPFFF入賞作品「にっぽにーず・がーる」他でした。



○96年からは「仙台ビジュアルフェスタ」の一環として、青年文化センターをお借りする事が出来るようになり、入場者数もぐんと増えて、今の形になりました。当時は、毎月の上映会と、毎月の作品選定で、スタッフ一同(…といっても2人でしたが…)ぐったりしていたのをおぼえています。

○また、おなじみの「2ヶ月スライド上映」で、1つの作品をできるだけ多くの人に見てもらえるようになったのも、この時からでした。上映会に違われたスタッフが、映画制作をするために、休みをとったため、98年は「おすすめ」はありませんでしたが、その間も新聞は発行され(右上・B5版)たので、あまり休みにはなりませんでした。そして、現在の形に落ち着きます。さてと、これからどうしましょうか。(シネマスト/あけみ)

仙台ビジュアルフェスタ 今後の上映日

- ・5月7日 (日) 青年文化センター3F エッグホール
- ・7月30日 (日) 同上
- ・9月17日 (日) //
- ・11月19日 (日) //

※現在のところ、これ以後3月までの上映が決定しています。事前にご確認ください。

電撃通信

仙台シネマ倶楽部

○2000年会員向け企画上映会

「博士の異常な愛情」

・昨年急逝したスティーヴン・スピルバーグ監督の最高傑作として名高いこの作品!!
皆様もぜひスクリーンでご堪能を!
監督/スタンリー・キューブリック
出演/ピーター・セラーズ/ジョージ・C・スコット他
■時/3月20日(月)祝日
①11:00- ②13:40- ③16:00-
■所/仙台市青年文化センター3F エッグホール
■料金・1000円(↓下記を参照)
(鑑賞の際は、会場の入会手続きが必要です)

仙台シネマ倶楽部新規会員大募集中!

○仙台シネマ倶楽部は、自分たちが観たい映画を自分たちの手で上映しようという、自主上映クラブです。ジャンルや新旧にこだわらず、映画を丸ごと好きになっていけるような活動を展開していけたらと思います。

■会費/年会費1000円
(上記上映会料金とは別会費と別です)

■特典
・会員向けの企画上映会が、無料でご覧いただけます(年2~3回程度)
・機関紙「映画が好き」をお手元に郵送いたします(隔月発行)

■問い合わせ先/仙台市青森区(阿部)
仙台市青森区(高塚・PMT -9時)

仙台ビジュアルフェスタ 今後の上映日

仙台シネマストでは、インディペンデント映画をより多くの方々に観賞していただくため、一日に複数回上映する方式をとっております。また、日程の都合がつかずご来場いただけなかった方のために、作品群を翌々月も上映いたしておりますのでお気軽にご来場ください。ただし「月間特集」のみはその月だけの上映となっておりますので裏面の作品解説を参照のうえ、ご観賞下さい。



A: 5月上映会 B: 7月上映会